

豊かな心を育てる富島中学校区生徒指導実践会議・学校運営協議会主催の「児童生徒意見発表会」を実施しました。第1部の「発表会」では、各小学校代表の6年生4組(5名)と、本校の1年生及び3年生の2名が代表として、それぞれ「20年後の本校区」をテーマに意見を発表しました。また、第2部の「パネルディスカッション」では、地域の方6名が同テーマでそれぞれの立場での意見を交わしました。会場の小中学生をはじめ、その保護者、PTA役員、地域、学校関係者、会議の構成委員など約200名の方が、子どもや地域の方たちの意見を自分の事として受け止めていたようです。

最後に会場の皆さんと、「『あいさつ』が飛び交う地域」をめざしていくことを確認して会を終えました。



【発表者の皆さん】

＜登壇者紹介＞【意見発表会：各学校代表者】日知屋小(川崎さん6年)、細島小(小山さん6年)、日知屋東小(武内・澁谷さん、佐藤さん6年)、富島中(黒木さん1年、原田さん3年)  
【パネルディスカッション：パネリスト】高木氏(細島まちづくり協議会)、青木氏(伊勢ヶ浜保育園)、田崎氏(天領うどん)、椎葉氏(元市PTA協議会会長)、西方氏(ヤングサポートみやざき)、伊達氏(市地域コミュニティ課)  
【コーディネーター】向江(富島中)

あいさつの取組を通して地域を盛り上げます！皆様のご協力をお願いいたします。



【通学路ピカピカ大作戦】  
(生徒会)



【地区でのあいさつ運動】  
(PTA生活指導委員会)



【小中合同あいさつ運動】  
(生徒会)

◆ 所 感 ◆

「風の人」と「土の人」

校長 向江修一

コミュニティ・スクールを設置し、早3年が終わろうとしています。時間はかかりましたが、「地域とともにある学校」として、学校運営協議会で「地域と学校の目標の共有化」を図ることができ、ようやく教職員・生徒・PTAそれぞれの立場で地域連携の取組が動き始めてきました。

そもそも本校区には、「馬ヶ背」「クルスの海」「伊勢ヶ浜」「大御神社」「細島」など、他に類を見ない「地域資源」がそこらじゅうに転がっています。私のような「風の人」(よそ者)にとっては、そんな「宝」がありながら、積極的に活用されていない状況に「？」疑問を感じます。

もちろん地域には、独自の自然や歴史、文化、生活様式などが息づき、個性があります。そして、これらの風土や今ある地域の姿は、「土の人」(地元の人)が長い年月の営みの中で得た業績であることも理解しています。ですから、地域の現状を無下に否定し、強引に変化させるものではなく、現状に敬意を払い、価値を認めた上で、「土の人」と「風の人」との相乗効果で新たな価値を付加していくものだと思います。

風土という言葉があります 動くものと動かないもの  
風と土 人にも風の性と土の性がある  
風は遠くから理想を含んでやってくるもの  
土はそこにあって生命を生み出し育むもの  
君、風性の人ならば、土を求めて吹く風になれ  
君、土性の人ならば風を呼びこむ土になれ  
土は風の軽さを嗤い(わらい)、風は土の重さを蔑む(さげすむ)  
愚かなことだ  
愛し合う男と女のように 風は軽く涼やかに 土は重く暖かく  
和して文化を生むものを  
魂を耕せばカルチャー、土を耕せばアグリカルチャー  
理想を求める風性の人、現実には根をはる土性の人、集まって  
文化を生もうとする  
ここに「風土舎」の設立を宣言する

急がず、慌てず、じっくりと地域と向き合い、対話を通して、学校の地域での立ち位置を模索しながら、将来の地域の担い手となる人材を地域とともに育てていきたいと思えます。

最後に、「風の人、土の人」という考え方がよく表れている、私の好きな元信州大学名誉教授、農学者だった故玉井袈裟男氏が立ち上げた「風水舎」の設立宣言を紹介します。



## ◆ ご挨拶 ◆

## 誇れる素晴らしい地域

協議会会長 青木雅矢

私たちが暮らしているこの地域には素晴らしい文化があります。毎朝、小中学生の登校時には地域の方々当たり前のように交差点に立ち、子ども達を見守ってくれています。下校時間にも、毎日地域の方々が見守ってくれています。

地域の運動会や夏祭りなど、準備が大変な行事も子ども達の為に数十年の間、形を変えずに継続されています。

この地域では、「子ども達の為に汗をかくのは当たり前である」という文化が根付いており、多くの地域の方が子ども達の為に尽力されています。しかし、これは決して当たり前の事ではないのです。

全国的には、このような価値観は稀有なものであり、同じ宮崎県内においても、このような事が出来ない地域が多数あるのです。

私たちは地域の方々が、このように子ども達の為に汗をかいてくれることを「当たり前」と思わず、そこに感謝をし、その文化を継承していく事が大切なのであり、この素晴らしい文化を持続可能なものにしていき、永く継続していく事が重要だと考えています。

その実現の為に、学生や保護者の皆さんには、地域の方々への感謝の気持ちを忘れないでいただきたいし、我々子育て世代はこの誇れる素晴らしい文化を受け継いでいく心構えと準備をしていくべきだと思います。

## ◆ 協議会委員の紹介 ◆ (敬称略)

青木 雅矢	… 本協議会会長、伊勢ヶ浜保育園長、元本校PTA会長
一政 浩代	… 同副会長、日知屋東地区主任児童委員
市島 荘史郎	… 日知屋本郷区長会理事長、下原区長
高木 慎平	… 市観光協会事務局次長、細島まちづくり協議会
柳田 仁司	… ケーブルメディアワイワイ日向局局長
石川 智恵美	… 元本校教職員
葛西 了一	… 本校PTA会長

## ＜今年度の計画＞

第1回	6月18日(金)
第2回	10月29日(金)
第3回	12月13日(月)
第4回	2月22日(火)

## ◆ 令和3年度 第1回 学校運営協議会 (報告) ◆ R3.6.18(金) 校長室

## ■ 令和3年度の教育計画について

向江校長より教育課程と学校経営方針についての説明があった。

## ■ 進路状況について

向江校長より令和2年度の進路状況についての説明があった。生徒の中には、自分で高校を見つけ、インターネットを利用した通信制高校を受験した生徒もいるなどの報告があった。

## ■ 学校評価の結果について

生徒は学校が楽しいようである。避難訓練などの安全教育や部活動に関する評価が高い。逆に、生徒からの相談にも適切に応じている、環境美化、いじめのない明るい学校の評価が低い。これらの評価を基に学校経営案や教育課程を作成している。

## ■ 富島中生の印象、どんな地域の子どもになってほしいか(委員の皆さんに質問)

地域であいさつしてくれるが、自分から積極的ではない。あいさつは基本であり、そこからコミュニケーションが広がる。自分からあいさつができるように、この協議会を通して考えていけたら良いのではないかと。また、部活動が盛んなので、その強みを生かして、学校や地域を盛り上げてほしい。



【第1回学校運営協議会の様子】

## ◆ 令和3年度 第2回 学校運営協議会 (報告) ◆ R3.10.29(金) 校長室

## ■ スマホ等の取扱いについて

「学校ではタブレットが導入され、家庭においてはスマホ等を使用している。」「子どもの周りには情報端末があふれ、SNSの指導も難しい状況にある。」など、学校からの説明を受け、委員からは「学校と家庭が連携し、家庭内でのルール作りや、メディアの使い方の授業等を通して、スマホ等をツールとして活用していきける子どもの育成を目指してほしい。」との意見が上がった。

## ■ あいさつを通しての取組について

前回の協議会で、明るい地域にするためには、「あいさつ」が基本であるという意見が多数あったことを踏まえ、以下の取組を進めることになった。



【第2回学校運営協議会の様子】



## ① 地区でのPTAあいさつ運動

これまではPTAでは学年ごとに校門であいさつ運動をしていたが、マンネリ化していたこともあり、生活指導委員会が各地区であいさつ運動をすることに変更した。

## ② 小中合同あいさつ運動

校区内の日知屋小、日知屋東小、細島小に生徒会役員が出向き、小学生と一緒に校門前であいさつ運動を行うことを追加した。